

【事業報告書】

（公益目的事業１）次代を担う青少年の健全な育成に資する事業

1. イオン チアーズクラブ（予算：2億7,752万円、実績：2億5,951万円）

自然環境や社会貢献活動などに興味や関心を持ち、考える力を育む場として、小中学生を中心に国内の店舗を拠点とし、体験学習を行っています。各クラブは「環境・社会」に関する独自のテーマに沿って活動を行い、1年間の成果を壁新聞に取りまとめています。2024年度までの累計メンバー数は、112,553名となりました。

（１）本年度の主な取り組み

①メンバー募集の強化

体験プログラム数の強化やウェブ広告、InstagramなどのSNSを活用したメンバー募集の強化に伴い、メンバー数は2023年度末の4,467名から2024年度末時点で6,274名に増加しました。また、各クラブの活動回数は、2024年度は全国で合計4,375回となり、昨年より962回増加しました。

②体験プログラムの強化

- a. 牛久チアーズ農園に続き、公立大学法人宮城大学と産学協働で「チアーズ農園」を開園しました。自分たちで育てたデントコーンを使った飼料の作り方のレクチャーを受けたり、牛舎での餌やりを体験するなど、チアーズメンバーと宮城大学の学生と一緒に実施できるプログラムを取り入れ、活動の幅を広げることができました。
- b. イオンディライト株式会社と協働で実施している防災体験プログラムでは、起震車や煙ハウスの体験に加え、AEDの操作や心肺蘇生法など救命処置の体験ができるプログラムを開始しました。
- c. マックスバリュ東海株式会社と協働で実施しているプログラムでは、炭水化物やたんぱく質、ビタミンのバランスの取れた食事の大切さを学ぶ食育講座プログラムを実施するなど、各社の事業特性を活かした体験プログラムを強化してまいりました。

③イオン チアーズクラブコーディネーター研修の開始

コーディネーターの育成と各クラブの活動を活性化させるため、月に一度、活動の好事例共有や意見交換を行うオンライン会議を実施しました。月次の会議に加えて、今年度は「壁新聞の作り方」をテーマに、エリアごとに外部講師による講義やワークショップを行う研修会を実施したことで、壁新聞審査会のエントリークラブ数は昨年より約60クラブ増加し、292クラブとなりました。

（２）全国大会

- ①各クラブが1年間の活動成果をまとめた壁新聞の審査会を全国12エリアで行い、入賞したクラブのメンバーとコーディネーターが、8月1日（木）から2泊3日で北海道と関東に集まりました。両会場をオンラインで接続して開始式を同時に開催するなど、新たな取り組みを行いました。
- ②メンバーは、壁新聞を使って活動内容を共有したほか、関東では地引網体験、北海道では羊毛を使ったクラフト体験などの体験学習を通じて、新たな気づきを得ました。

2. 中学生作文コンクール（予算：4,050万円、実績：4,310万円）

多感な時期といわれる中学生が環境に関する社会問題をテーマに自分自身の考えをまとめ、書く力を養うことを目的に、2003年から実施しています。

2024年度までに累計32,635の作品が寄せられました。

(1) 本年度の主な取り組み

① ホームページ、SNSを活用した告知の強化

2024年度は、「私にできる気候変動対策」をテーマに作文を募集し、ホームページやSNSでの告知に加え、イオングループ各社に店舗でのポスター掲示にご協力をいただき応募の促進に努めました。また、応募作品の質向上を目的に、審査員を務めていただいた教育アドバイザーの清水章弘氏による「作文の書き方講座」をYouTubeで公開しました。

② 「文部科学大臣賞」の新設

事業開始から20年以上となることや応募作品数などの実績が評価され、今年度より「文部科学大臣賞」をいただくことができました。また、ホームページやSNSを通じて、コンクールの認知度向上に努めました。その結果、全国から計7,512の作品が寄せられました。

③ 表彰式での「交流会」および「特別講演会」の開催

- ・ 11月30日（土）に東京都内で表彰式を開催し、「文部科学大臣賞」「優秀賞」「入賞」受賞者の計30名を招待しました。
- ・ 表彰式の後には、全国から集まった受賞者と審査員が交流する時間を設け、作家の汐見夏衛氏をはじめとする審査員の方々に文章の書き方などのアドバイスをいただく機会となりました。
- ・ 加えて、審査員を務めていただいた気象予報士の依田司氏による特別講演会を開催し、事前予約制で一般の方にもご参加いただける形式としました。

④ 環境エコツアーの実施

表彰式の翌日には、受賞者とその保護者を対象に、東京都内にある気象科学館の見学やSDGsの啓発ポスターの作成をグループワークで行う環境エコツアーを実施しました。持続可能な社会の実現に向けて学びを深めながら、全国から集まった受賞者同士の交流を深める時間となりました。

(2) 後 援：文部科学省、環境省、株式会社朝日新聞社、株式会社朝日学生新聞社

(3) 募集期間：7月1日（月）～9月20日（金）

3. イオン エコワングランプリ（予算：5,350万円、実績：4,970万円）

全国の高校生がクラブ単位で取り組んでいる環境保全や社会貢献に関する活動の発表を行い、表現力や発信力を向上させるとともに、優れた事例を見聞きすることで、新たな取り組みの実践に繋げることを目的に2012年から実施しています。

2024年度までに累計1,687クラブからの応募が寄せられています。

(1) 本年度の主な取り組み

①応募者募集の強化

- ・ホームページやSNSでの告知に加え、イオングループ各社に店舗での告知にご協力をいただき、募集の強化に努めました。
- ・全国の高等学校に郵送やメールで案内するとともに、過年度応募校や農業高校などの専門的な知識や技術を学べる学科が設置されている高校に対して電話で案内し、応募の促進に努めました。
- ・今年度は、全国から「普及・啓発部門」で81件、「研究・専門部門」で46件、計127件、総勢約3,500名の高校生からエコ活動の応募が寄せられました。

②研究成果発表および最終審査会の開催

- ・全国から寄せられた取り組みの中から事前審査を通過した上位12クラブを招待し、12月14日(土)に東京都内で最終審査会を開催しました。
- ・各クラブの代表者が活動の成果を発表し、国立環境研究所の五箇公一氏をはじめとする4名の審査員との質疑応答を実施しました。同日に、内閣総理大臣賞、文部科学大臣賞、環境大臣賞、イオンワンパーセントクラブ賞など上位6クラブを表彰しました。受賞したクラブには、賞状と活動奨励金をそれぞれお渡ししました。

③環境エコツアーの実施

- ・最終審査会翌日には、東京都心における環境や生物多様性の保全のための取り組みを実際に見て学ぶことを目的に環境エコツアーを実施しました。
- ・東京都港区にある竹芝干潟にて干潟造成の目的や水生生物を調査するフィールドワークを実施して環境問題を学ぶとともに、その啓発方法について参加者同士でディスカッションを行うなど学びを深めました。

(2) 共 催：株式会社毎日新聞社

(3) 後 援：文部科学省、環境省

(4) 募集期間：7月18日(木)～9月20日(金)

(5) 参加対象：クラブ単位で環境保全に関する活動をしている高校生(団体応募)

4. 学校建設支援(予算：2,000万円、実績：370万円)

(1) 本年度の主な取り組み

- ①2011年から2013年にベトナム・フエ省に建設した小学校30校のうち2校から修繕要望を受け、防水加工、ならびに屋根や床の補修作業などを実施しました。
- ②アジア各国では、経済力の向上により学校建設支援へのニーズが低くなっており、当財団は公益財団法人日本ユニセフ協会と協力して教員養成や教材支援等のソフト面での支援を実施してまいりました。しかしながら、対象地域の教育水準や教材の配布状況についてのモニタリングは困難な状況にあることから、内閣府に対して学校建設支援事業終了に向けた変更認定を申請し、内諾をいただいております。

5. イオン・ユニセフ セーフウォーターキャンペーン

(予算：5,600万円、実績：5,180万円)

カンボジア、ミャンマーの一部地域では、遠方への水汲みに時間をとられ、学校に通えない子どもたちがいます。これらの地域に安全な水を届けるため、2010年から公益財団法人日本ユニセフ協会と協力して全国から寄せられた募金にマッチング寄附を行い、支援を実施しています。2024年度までに日本ユニセフ協会からのマッチング寄附と合わせて累計12億823万8,400円、約64万名の方の支援を行っています。

(1) 本年度の主な取り組み

- ① 4月8日(月)～5月12日(日)、全国のイオングループ店舗および事業所約7,000箇所において実施した募金は、総額2,357万9,372円となりました。当財団から同額をマッチングした寄附金額に、公益財団法人日本ユニセフ協会が同額を拠出し、総額9,431万7,488円を、給水システムなどの設置・拡充にお役立ていただくためカンボジア・ミャンマーに寄附しました。
- ② 本事業の内容をより多くの現地の方々に知っていただくことを目的に、7月22日(月)カンボジアのイオンモールセンソックシティにおいて贈呈式を開催しました。在カンボジア日本国大使館の植野篤志 特命全権大使をはじめ、カンボジア工業科学技術革新省、水道局協会の代表者の皆さまにご出席いただきました。
- ③ 7月23日(火)にカンボジアのコンポンスプー州の家庭を訪問し、本事業による支援状況を視察しました。現地では、給水施設の設置などにより、安全な水を使えるようになった地区がある一方、未だ給水施設のない地区も数多く残されています。

6. 近野教育振興基金(予算：416万円、実績：470万円)

公益財団法人近野教育振興会の「教育支援による社会貢献を目指す」という思いを受け継ぎ、同振興会より奨学生支援事業を近野教育振興基金として継承しました。

(1) 本年度の主な取り組み

- ① 公益財団法人近野教育振興会より7月末日付で特定寄附金3億2,000万円を受理し、奨学生支援事業を継承しました。8月より、当財団にて奨学金支給業務を開始しました。
- ② 11月10日(日)に米沢市内において事業移管記念式典を開催し、山形県知事や山形県教育長、米沢市長をはじめ、近野教育振興会理事ならびに当財団の理事および評議員、奨学金対象高校の校長、奨学生などに参列いただきました。

(公益目的事業2) 諸外国との友好親善の促進に資する事業

1. ティーンエイジ アンバサダー (予算: 9,650万円、実績: 8,190万円)

将来を担う日本と海外の高校生が、お互いの国の訪問を通じて文化や歴史に対する理解を深め、グローバルな感覚を身につけるとともに友好親善を深め、両国の架け橋となることを目指す交流プログラムです。1990年から2024年までに、アジア各国を中心とする18カ国、2,601名の高校生が参加しています。

(1) 本年度の主な取り組み

- ①日本から40名、中国から40名、計80名の高校生が交流しました。
 - a. 日本 4校 各10名
東洋大学附属牛久高等学校 (茨城県)、東京学芸大学附属高等学校 (東京都)
立命館守山高等学校 (滋賀県)、神戸市立葺合高等学校 (兵庫県)
 - b. 中国 4校 各10名
北京師範大学第二附属中学 (北京市)、北京市十一学校 (北京市)
長沙博納第二附属中学 (湖南省)、益陽市第一中学 (湖南省)
- ②日本プログラム : 7月15日(月)~20日(土)
 - a. 首相官邸を表敬訪問し、岸田文雄 首相よりご挨拶をいただきました。
 - b. 外務省 等々力研 地域調整官より、外交官の役割をテーマに講義いただきました。
 - c. 中華人民共和国駐日本国大使館で歓迎会を開催し、施泳 臨時代理大使、野田毅 日中協会会長よりご挨拶をいただきました。
 - d. 歴史・文化活動では、浅草での着物体験や日本科学技術館の見学などを通して、日本の歴史・文化について理解を深めました。
 - e. 茨城、東京、滋賀、兵庫に分かれて、授業体験やホームステイを実施しました。
- ③中国プログラム : 10月14日(月)~19日(土)
 - a. 中国への渡航前に現地日本人小学生が巻き込まれる事件が発生しましたが、外務省や両国大使館、中国の人民政府、中国公安局のご協力のもと、プログラム中の同行による警備体制強化など、安全確保に最大限のご協力をいただき、問題なく全行程を実施することができました。
 - b. 中国の政府機関を訪問し、中国外交部の劉勁松 アジア司長よりご挨拶をいただきました。
 - c. 在中国日本国大使館では、臼井将人 公使の講演と質疑応答に続き、歓迎会では金杉憲治 特命全権大使よりご挨拶をいただきました。
 - d. 中国の伝統衣装「漢服」を着用した故宮散策や、版画体験、万里の長城見学などを通じて歴史・文化体験を実施しました。
 - e. 北京市と湖南省に分かれ、現地校での授業体験やホームステイを実施しました。湖南省では、岳麓書院にて湖南省政協の肖百霊 副主席との交流会や、湖南省行政センター内の見学を行いました。

2. アジア ユースリーダーズ（予算：5,873万円、実績：5,730万円）

アジアの将来を担う高校生たちが、グローバルな感覚を養い、価値観の多様性を学ぶとともに、リーダーに必要な問題解決力や自発的な行動力を高めることを目的に、共通の社会問題について英語で議論するプログラムです。次世代を担うリーダーの育成を目的に実施する本プログラムは、本年度で15回目を迎え、これまで累計1,296名が参加しています。

（1）本年度の主な取り組み

①グループディスカッションの実施

8月19日（月）～23日（金）、日本を含むアジア8カ国の高校生80名が東京に集まり、8チームに分かれて「将来のリーダーに必要な資質」をテーマにディスカッションを行いました。

②レクチャーの受講および日本の文化体験

期間中、人事院国際課の矢島恵理子 課長から異文化コミュニケーションについてや、東京大学大学院教育学研究科の北村友人 教授から教育の多様性と役割についてのレクチャーを受けました。また、和菓子作りや浴衣で盆踊りなどの体験を通じて、日本文化への理解や参加者同士の交流を深めました。

③成果発表会の開催

最終日には、チーム毎に10分間で発表を行いました。発想力豊かで活気ある発表内容が審査員に評価されました。表彰式には大使館や外務省からの来賓もお招きし、参加した高校生は各国の舞踊や歌を披露しました。

（2）参加対象：8カ国の高校生 80名

（インドネシア8名、カンボジア8名、タイ8名、中国8名、ベトナム8名、マレーシア8名、ラオス8名、日本24名）

（3）後 援：文部科学省、外務省

3. イオン スカラシップ（予算：2億7,700万円、実績：2億6,160万円）

将来日本と母国の架け橋として活躍することを目指す学生を支援するため、日本の大学で学ぶアジア各国からの私費留学生と、アジア各国で学ぶ大学生を対象に、2006年から実施しています。2024年度までに累計9,357名の学生に奨学金を支給しています。授業料や生活費を支給しているほか、奨学生同士の交流や宿泊研修カリキュラム、ボランティア活動などの機会を提供しています。

（1）本年度の主な取り組み

①日本

- a. 6月28日（金）、東京都内にてイオン スカラシップ認定証授与式を開催し、日本の大学に留学している大学生37名を奨学生として認定しました。
- b. 駐日カンボジア王国大使館 トゥイ・リー 特命全権大使をはじめ、各国駐日大使館や留学先の大学関係者、寄附企業代表者にご出席いただいて奨学生を激励したほか、奨学生が「私の夢」と題するスピーチを披露しました。
- c. 2025年2月、日本国内の大学に通う奨学生へのフォローアップセミナーとして、東京大学の井上健 名誉教授より日本語・日本文化に関する講義の受講や、参加者同士のディスカッションならびに交流事業を実施しました。
- d. 現在アジアの大学生へ支給している奨学金対象者について、イオン スカラシップ20周年を迎えるにあたり、将来日本とアジアの架け橋として活躍することを志す日本人大学生へも拡大するため、変更認定を申請しております。

②アセアン・中国各国

- a. 11月～1月にかけて、インドネシア、カンボジア、タイ、中国、ベトナム、ミャンマーでイオン スカラシップ認定証授与式を開催し、6カ国23大学で学ぶ現地の大学生467名を奨学生として認定しました。授与式には、各大学代表者や日本国大使館の代表者、寄附企業の代表者にもご出席いただき、奨学生と交流を深めました。
- b. 中国で発展が著しい湖南エリアにおいて、本年度より湖南大学を新たに奨学金対象大学に追加したほか、ベトナムにて支給金額および支給人数の見直しを行いました。

③日本語スピーチコンテスト

イオン スカラシップ事業の一環として、将来日本への留学や、日本に関連する職業に従事することを目指す人材の育成を目的に、アセアン各国および中国において、日本語スピーチコンテストを開催しました。

a. 各国での選考会の実施

- ・インドネシア、カンボジア、タイ、中国、ベトナム、マレーシアで参加者を募集し、6カ国76大学より計277名の応募が寄せられました。
- ・各国でウェブ動画による一次選考、対面形式での二次選考で選ばれた代表者50名を日本で開催する最終審査会に招待しました。

b. 日本での最終審査会および表彰式の開催

- ・2025年2月7日（金）に東京都内で最終審査会および表彰式を開催し、最優秀賞1名、優秀賞9名を表彰しました。
- ・訪日中、参加者たちは日本の大学に留学しているイオン スカラシップ奨学生と交流したほか、国会議事堂や東京国立博物館の見学、和菓子作りや茶道体験などを通じて、日本文化について理解を深めました。

(公益目的事業3) 地域社会の持続的発展に資する事業

1. ふるさと未来支援（予算：1億3,880万円、実績：9,020万円）

ふるさとに受け継がれ、未来に引き継ぐべき伝統文化・工芸技術の普及および継承に取り組む団体を支援しています。また、少子化や核家族化が進行する現代において、乳幼児から未就学児の子育てをしている方へ新たな気づきを得る場や悩み事を相談する機会を提供し、より良いコミュニティづくりを支援しています。

(1) 伝統文化・歴史風土の継承のための助成

①本年度の主な取り組み

- a. ふるさと未来支援事業の周知、認知度向上に取り組みました。
当財団のホームページへの掲載のほか、ポスター掲示やデジタルサイネージへの投影、SNSの活用など、より多くの方に本事業の活動を伝えることに努めました。
- b. 助成先の選定は、北海道大学の西山徳明 教授をはじめとする3名の方々に審査をいただき決定しました。
- c. 本年度応募のあった70団体のうち、営利目的要素が高い活動や懇親会での飲食代など対象外費用を除き、66団体へ8,111万円の助成を行いました。

②対象期間：2024年4月1日（月）～2025年3月31日（月）

③参加対象：日本国内の地域文化・工芸技術の継承活動の実施団体

(2) イオン すくすくラボ

①本年度の主な取り組み

乳幼児から未就学児の子育てをされている方を対象に、育児に関するお悩み相談会や個別相談会を実施しました。また、親子で楽しめる手遊びや、株式会社イオンファンタジーのオリジナルキャラクターとの体操など乳幼児向けのコンテンツを実施したり、乳幼児向け用品を紹介するコーナーを設営するなど新たな取り組みを開始しました。

②実施日：2024年 4月14日（日） 浜松志都呂
2024年 9月23日（月・祝）名古屋ノリタケガーデン
2024年10月26日（土） 越谷レイクタウン
2024年12月15日（日） 東戸塚
2025年 2月 9日（日） 甲府昭和
2025年 2月22日（土） 盛岡

③参加対象：開催地域周辺の未就学児（0～3歳児）とその家族

2. 災害復興支援（予算：2億2,650万円、実績：1億5,210万円）

大規模災害により被災した方々が、日常の生活を一日でも早く取り戻せるよう復旧・復興を支援しています。国内外で発生した災害の被災地において、復旧・復興活動にお役立ていただくため、迅速な緊急支援金の寄附などを行っています。

（1）本年度の主な取り組み

① 緊急災害復興支援

a. ベトナムにおける台風災害

- ・ 支援対象：2024年9月の台風11号により被災された方
- ・ 支援内容：2024年9月18日(水)、ベトナムに対し支援金として5万米ドル(約723万円)を寄附しました。

b. 石川県奥能登豪雨による災害

- ・ 支援対象：2024年9月の奥能登豪雨により被災された方
- ・ 支援内容：2024年10月15日(火)、石川県に対し支援金1,000万円を寄附しました。

c. 岩手県大船渡市林野火災による災害

- ・ 支援対象：2025年2月の大船渡市林野火災により被災された方
- ・ 支援内容：2025年3月7日(金)、大船渡市に対し支援金1,000万円を寄附しました。

d. ミャンマーで発生した地震災害

- ・ 支援対象：2025年3月の大地震により被災された方
- ・ 支援内容：2025年4月2日(水)、ミャンマーに対し1,000万円相当の支援物資を寄附（飲食料品、衛生用品、生活用品等）しました。

② 首里城復興支援

2019年10月に発生した大規模な火災により、甚大な被害を受けた世界遺産である首里城の再建を支援し、5年間にわたり計5億円の支援を行ってまいりました。

a. 本年度の主な取り組み

- ・ 11月3日(日)、玉城デニー 沖縄県知事ご出席のもと、沖縄県に復興支援金として1億円を贈呈しました（5年計画の最終年度）。
- ・ イオン チアーズクラブのメンバーが首里城を描いたポスターコンクールを実施し、全国から794作品が寄せられました。入賞者を沖縄県へ招待し、表彰式を開催しました。
- ・ 首里城の復興状況を全国に伝えることを目的に、2024年11月より「首里城復興祈念展」を開始しました。沖縄県、一般財団法人 沖縄美ら島財団の協力のもと「首里城復興への歩み」と題するパネルを、全国のショッピングセンターでポスターコンクールの作品とともに展示しました。首里城に因んだワークショップも2025年5月までに合計10カ所開催し、累計5,500名を超える方にご参加いただきました。

3. 公益法人への支援（予算：1,600万円、実績：1,600万円）

地域の青少年育成に貢献する公益法人に対して支援するとともに、子どもたちの情操教育に繋がる各活動を実施しています。

（１）PMF札幌への支援（予算：1,100万円、実績：1,100万円）

①本年度の主な取り組み

メインスポンサーとして協賛いたしました。また、イオン チアーズクラブのメンバーがコンサート運営のお手伝いやリハーサル室の見学、PMFオーケストラメンバーと交流するプログラムを実施するなど、支援先と連携した活動を実施しました。本年は7月26日（金）札幌コンサートホールKitaraに加え、7月30日（火）に東京のサントリーホールでも実施しました。

②実施期間：7月4日（木）～30日（火）

③支援対象：公益財団法人パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会

（２）セイジ・オザワ松本フェスティバルへの支援（予算：500万円、実績：500万円）

①本年度の主な取り組み

プラチナ会員として協賛いたしました。また、8月25日（日）に、イオン チアーズクラブのメンバーがコンサートの運営のお手伝いや、オーケストラメンバーの楽屋や舞台装置を見学するプログラムを実施するなど、支援先と連携した活動を実施しました。

②実施期間：8月9日（金）～9月4日（水）

③支援対象：公益財団法人 サイトウ・キネン財団

管理費（法人会計）

1. 広報活動（予算：9,320万円、実績：7,830万円）

（1）活動報告書

イオン チアーズクラブ、ティーンエイジ アンバサダー、災害復興支援を中心に、当財団の活動内容を、イオングループ主要各社・店舗、個人寄附者、自治体、事業参加者などへ、毎号約4.5万部配布しています。

（2）ホームページ・SNSを活用したPR強化

- ①ホームページの訪問者数を増やすため月1万ドルまで無償利用できるGoogle Ad Grants（非営利団体向けネット広告）などによる広告掲載を行いました。
- ②ホームページの魅力度向上を図るため、環境や社会への理解を深めるコラムを掲載するなど、ホームページの情報更新の頻度を高めました。
- ③その結果、ホームページの閲覧回数は、2023年度の月間平均1.6万回に対し、2024年度は月間平均2.7万回と、約1.7倍に増加しました。その内、自主的に当財団のホームページが検索された回数は、2023年度の月間平均1,400回に対し、2024年度は月間平均9,000回と、約6.4倍に増加しました。

（3）海外イベントへの参加

大使や各省庁が主催する各国のフェスティバルに出展し、当財団の活動について周知するとともに、各国の大使館・省庁との連携強化を図りました。

- ・カンボジア 5月3日（金）～ 5月4日（土）代々木公園
- ・ベトナム 6月1日（土）～ 6月2日（日）代々木公園
- ・中国 9月7日（土）～ 9月8日（日）代々木公園

（4）会員データベースの構築

当財団のホームページを一部改修し、各事業への参加者が参加登録をする際の画面を使いやすい仕様に変更しました。また、各事業の参加者に対して当財団から一斉に案内メールを配信できる仕組みを導入し、参加者と双方向のコミュニケーションを取ることができる体制の整備に取り組みました。

2. 団体会費（活動支援の寄附として）

- | | |
|-------------------|--------------|
| （1）ジャパンプラットフォーム | 予算、実績ともに30万円 |
| （2）公益財団法人花と緑の農芸財団 | 予算、実績ともに22万円 |
| （3）公益財団法人公益法人協会 | 予算、実績ともに12万円 |

以 上